

# 北信濃里山通信 vol.31

2018年5月26日発行

「飯山市ふるさと館」企画展

『守ろう！つなごう！ 北信濃の生き物 ～蝶編～』

開催中です

前号でもお知らせしましたが、飯山市ふるさと館の企画展『守ろう！つなごう！ 北信濃の生き物 ～蝶編～』を開催中で、飯山の自然環境とそこに生息する蝶類を写真パネルや標本・実物、デジタルフォトフレームによる動画などで紹介しています。

日本（北海道～沖縄）には約240種の蝶類が定着して生息していますが、長野県では約140種、飯山にはこれまで110種類を超える蝶が記録されており、全国的に見ても生息する蝶の種類数が多い地域で、飯山にはたくさんの蝶が生息できるような多様で豊かな自然環境があることを物語っています。しかしながら、環境の変化などにより飯山から姿を消した蝶もいますが、発生量が減少して絶滅が危惧される種も多く、蝶たちを見守りながら自然環境を保全し、次世代につないでいくことが課題となっています。

今回の企画展では特に飯山で保全活動が行われている「ギフチョウ」や「オオルリシジミ」を取り上げ、ギフチョウでは生態の他にヒメギフチョウの混生域、飯山産ギフチョウの特徴、生息確認地点などを展示、オオルリシジミでは減少要因と希少性、当会での活動などを中心に解説させていただきました。

この企画展は6月17日（日）までです。一般の方々にもお誘いのうえ、是非、御来館ください。



## お知らせ

### ・「第7回・オオルリシジミ親子観察会」の開催

毎年恒例となりました「オオルリシジミ親子観察会」ですが、本年は以下のとおり戸狩地区の放蝶地で行います。

【日時・場所】 6月10日（日）午前8:00～12:00 飯山市戸狩地区の放蝶地

【集合場所】 飯山市公民館（飯山市飯山1436-1）

【日程など】 当日8:00から受付、8:30にバスで開会場所（戸狩スキー場「望の湯駐車場」）に移動、9:00に開会し、徒歩で観察場所に向かいます。直接、開会場所に集合されても結構です。

参加者には食草のクララの植栽、オオルリシジミの観察とモニタリング調査（目視数をカウント）を実施していただきます。

【申込み】 参加を希望される方は、飯山市ふるさと館（当会事務局・TEL：0269-67-2030）へ6月7日までに御連絡ください。

【その他】 山歩きに適した服装でお越しください。小雨決行です。中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。

### ・オオルリシジミ生息地での成虫確認調査、環境整備と野鳥観察

オオルリシジミ生息地での成虫確認調査と環境整備として草原に自生し始めたカラマツやダケカンバなどの幼木類の除伐作業を行います。また、カヤとして利用するススキも草勢が強いものが多く、茎が太くなってカヤに適さなくなりますが、この時期に一度刈っておくと茎が細くなってカヤの質がよくなるとも考えられますので、試してみたいところです。

定期的に行っている野鳥観察調査も合わせて実施したいと思っておりますので、御参加をお願いします。

【日時】 6月16日（土）午前9:00～15:00頃

（終わりの時間は参加人員・作業の進行によります・・・）

※野鳥調査は当日午後に行います。集合時間は13時（飯山市公民館）とします。双眼鏡やカメラなど観察道具を持参してください。

※雨天の場合は中止としますが、実施不明な場合は前日の夕方、当会事務局（飯山市ふるさと館）TEL：0269-67-2030へ問い合わせください。

【集合場所】 飯山市公民館駐車場としますが、直接生息地に向かわれても結構です。

作業のできる服装でお越しください。

## 活動報告など

### 「定期総会」と「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」、「野焼き」の試行

3月10日午前に当会の「定期総会」が開催され、本年度の事業計画などが承認されました。引き続き、オオルリシジミの保全活動を始め、里山資源の活用などを進めていきたいと思っております。

午後はオオルリシジミ生息地で、春の野焼きを試験的に実施するため消雪剤（炭の粉）を散布。

生息地はまだ1m近くの積雪があり、スノーシューを装備して近くの集落から徒歩で現地へ向かいました。消雪剤はソリで運搬です。

消雪剤はオオルリシジミの発生地となっている草原の3箇所に散布し、部分的に融雪を促し（黒い炭の粉で太陽熱を集積させます）、火災防止のため周囲に雪を残して野焼きを行います。



消雪剤散布の様子

消雪剤散布後は山の斜面を下り、雪山歩きを楽しみながら作業を終了しました。

その後は、会員の三井さんにより山スキーで現地をたびたび確認、消雪剤の効果により枯れ草に覆われた地面が周囲よりも早く出現。今年は気温が高かったためか雪解けが例年よりも早く、地元の区長さんや消防署にも了解を得て4月3日に野焼きを行いました。

野焼き当日は会員4人で、消火器やスコップなどを準備して、無風の午前中（9時30分～11時過ぎまで）消雪状態が良好な2カ所（生息地の上部と中段上部、もう1箇所の中段下部は消雪が進み周囲に積雪がなく断念）で実施。上部は乾燥状態も良く上方から下方へと点火、火の回りも良好でした。



消雪剤散布箇所(4月1日)  
周囲よりも早く地面が顔を出しました。



野焼き実施中、順調でした。(4月2日)



野焼きの跡地に生育するクララ(5月20日)。

来年以降の課題としては野焼き範囲の拡大や、場所により消雪状況を見ての実施などを検討したいところですが、野焼きを継続することでオオルリシジミの生息に好適な草原の維持（遷移の抑制）、植生（ススキやクララ）の状態などを観察していきたいと思えます。

### ・ オオルリシジミの放蝶作業

本年は雪消えが早く、例年よりも早い4月22日に飯山市戸狩地区でオオルリシジミ蛹（総数60頭）の放蝶作業を行いました。鹿沼土を詰めた鉢にオオルリシジミの蛹を入れ、それを埋設する作業で、自然に羽化をさせます。

2013年から当地で始まった放蝶作業も今年で5年目。以前に放蝶したものからの自然発生と合わせて、定着と発生範囲の拡大が期待されますが、周辺への食草のクララの植栽を同時に進めたいところです。

なお、5月20日にオオルリシジミの羽化が観察され、先にお知らせしましたが6月10日に当地で観察会を予定しています。



オオルリシジミの放蝶作業(蛹の埋設)

## ・カヤの搬出、運搬作業

昨年11月に採取し、飯山市秋津の荒船山農村公園の小屋に保管しておいたカヤですが、5月15日に搬出してトラックに積み込み、小谷村にある茅葺き屋根業者「小谷屋根」に運搬しました。

「小谷屋根」には、これまでも飯山へカヤの刈り取り指導に来ていただきながら、カヤを買い取ってもらっていましたが、今回はこちらから小谷村までカヤの運び込みをしました(遠かった!)

持ち込んだカヤを小谷屋根の倉庫に搬入し、倉庫番のカヤの加工調整にあたられている方からお話を聞くことができました。

今回のカヤはやや太め(細い方がよい)でしたが十分利用可能、冬季の保管中に茎が曲がらないよう(乾燥と立て方)に注意をお願いしたいとのことです。オオルリシジミ生息地のカヤ(ススキ)も、これまで放任されて草勢が強く、茎が太くなりがちですが、初夏に一度刈り落とすなどして、茎を細めに仕立てる方法を考えているところです。また、本年実施した「野焼き」がカヤの質にもたらす効果(地力の抑制など)についても今後見ていきたいと思えます。

小谷屋根の倉庫には、枯れ葉が落とされ屋根用に加工されたカヤがたくさん保管されていましたが(右上写真)、需要に対して供給がなかなか追いつかないそうです。今年も各地で茅葺き屋根の改修工事を控えているようで、当会としても里山資源の活用として「カヤ刈り」を継続、拡大させたいと考えます。

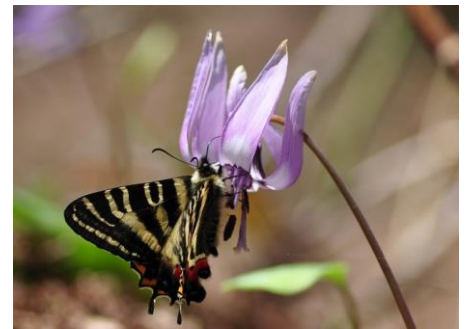


加工され保管中のカヤ

## 編集後記

今年は春の進み方が早く、「春の女神」とも呼ばれるギフチョウも例年よりも早くに姿を見せました。4月22日に行われたオオルリシジミ放蝶作業後、会員の花崎さんは黒岩山を訪れカタクリで吸蜜するギフチョウを観察(右写真)、山腹はもう初夏の装いとのことでした。

飯山市内のギフチョウの生息地は冒頭のふるさと館企画展でも紹介していますが、最近の信越トレイル沿いでのギフチョウとヒメギフチョウの分布域を調査したいと考えています。



カタクリで吸蜜するギフチョウ



春の信越トレイル・黒倉山、鍋倉山を望む

5月6日、ギフチョウの調査も兼ね、信越トレイルの牧峠～関田峠を歩いてみました(両峠とも昨年の災害のため車は通行止め状態ですが・・・)。

牧峠下の林間でギフチョウを観察しましたが、信越トレイル・関田山脈の稜線に入ると、さすがにまだ雪に覆われたところが多く(左写真)、蝶の姿は確認できませんでした。それでも、雪解け箇所からヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンが見られ、また、調査に訪れたいと思えます。

残雪のあるこの時期、間近で見るブナの新緑の景色は非常に魅力的で北信濃の春を実感します。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行

事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1434-1

飯山市ふるさと館内

TEL/FAX：0269-67-2030

E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp

編集者・事務局長：福本匡志